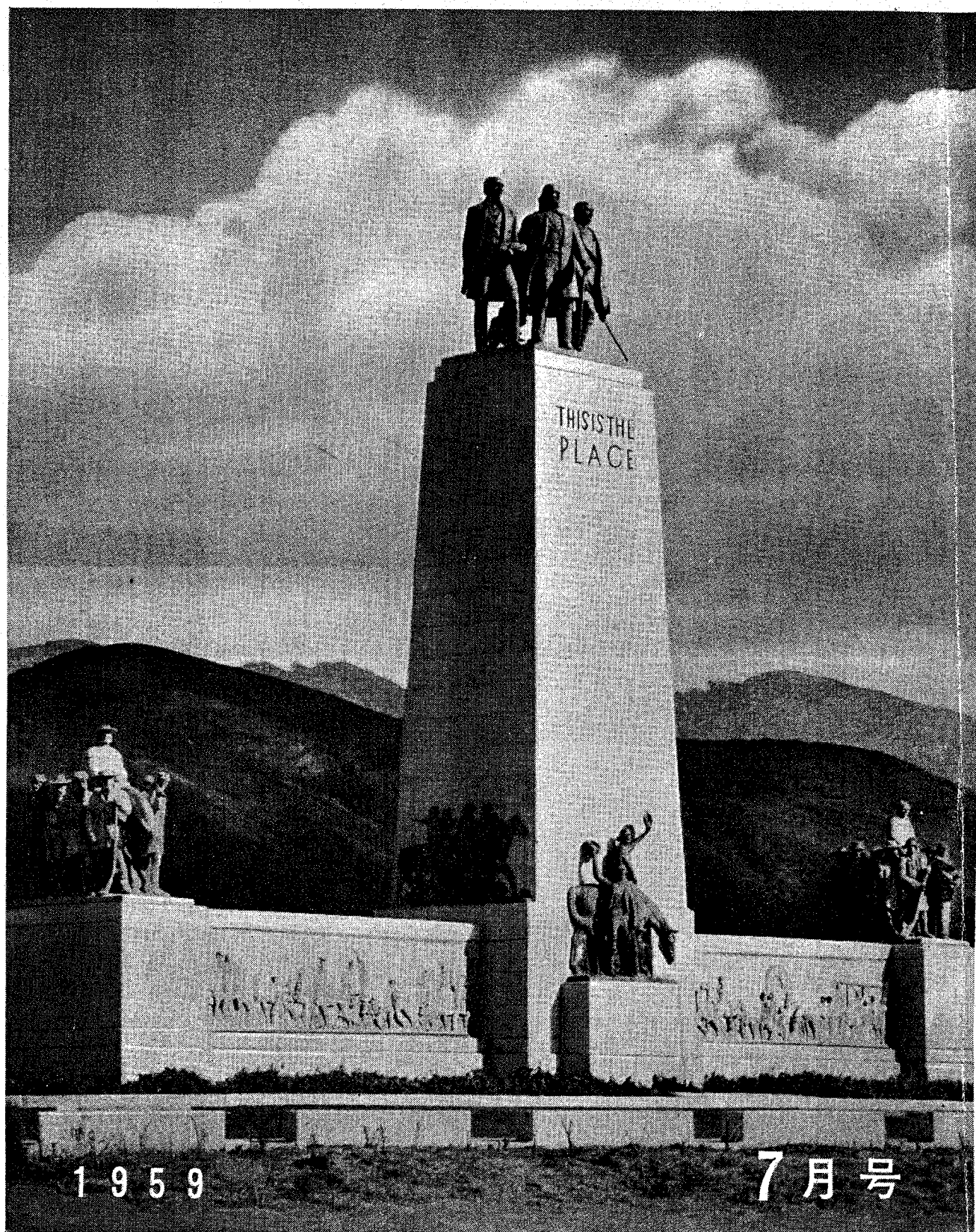


道徒の聖

第三卷第七号一九五九年七月一日発行



1959

7月号

末日聖徒イエス・キリスト教会

100

一〇四

一〇四

一〇四



ブリガム・ヤング (ウォールベック長老画)

聖徒の道

目

次

一九五九年七月号

【予言者のことば】

開拓者の美徳……大管長 デビッド・O・マッケイ……2

【伝道部長メッセージ】

時間と才能と金銭の限りを尽して……ポール・C・
王国をうち建てるために働こう……アンドラス……4

善をなすにうむことなかれ……アルヴィン・R・
ダイヤー……7

「復活の法則」(モルモンの教義)……佐藤竜猪……10

【極東に於けるモルモン】

私の改宗……福田 濃……13

私の体験……高木 富五郎……14

今月の出来事

奇跡の日(七月二十二日)……16

開拓者記念日(七月二十四日)……17

ジョン・テイラーの死(七月二十五日)……18

伝道本部より……19

開拓者記念日とその意義(特集記事)……20

モルモン経物語……23

礫推正三破門さる……29

幸福への道……30

私の証詞……土屋 けさ子……30

私の証詞……与那峯 初子……30

予言者のことば

開拓者の美德

大管長 デビド・O・マツケイ

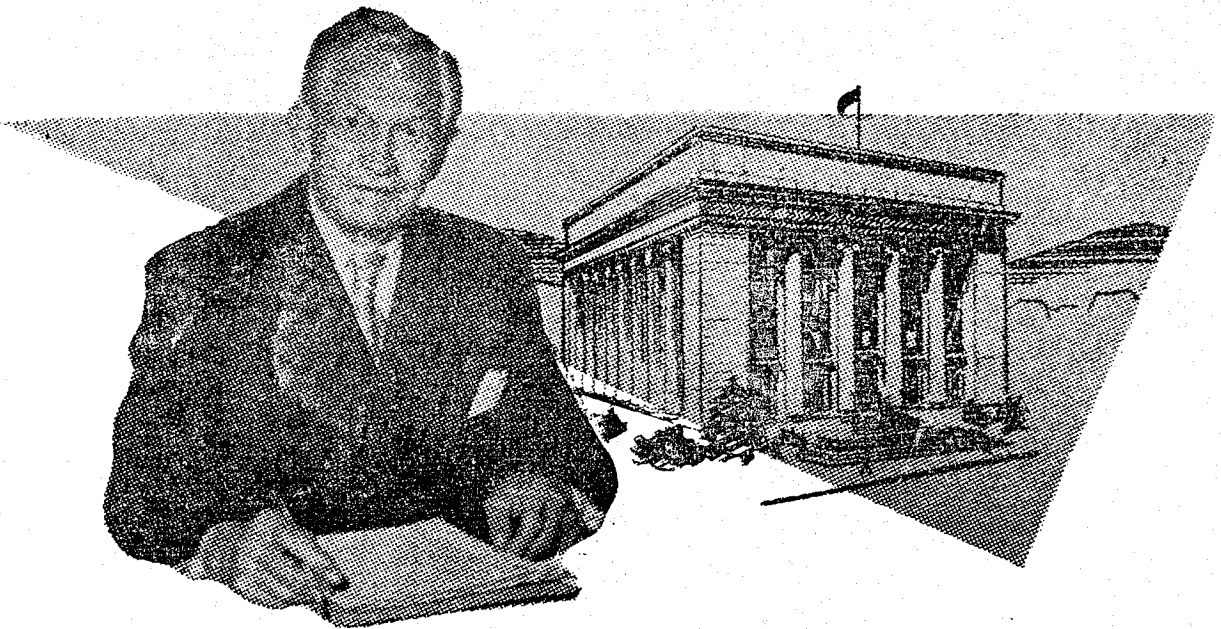
わが西部の盆地に入植した開拓者たちが最もひどい逆境に於てさえ育成し維持していた数々の理想は、当時ロッキー山中の植民地に於いて適用されたと同じように今日全世界に適用される。私はまず開拓者の信仰と崇敬の徳を挙げる。開拓者の胸の中には常に信仰と神をあがめ敬う念があったが、これは他の何よりも今日世人が必要とするものである。

第二の美德は節儉と経済である。開拓者は怠惰と浪費とを天の定めに従わないことであると言って非難した。開拓者は労資の間に相互援助の必要があることを認めたので、労資間の協力精神を教えたばかりでなくこれを実行した。

開拓者が例証しただけでなく幸福と平和にとつて最も適切な今一つの特質は、自制という小さな簡単な美德である。もしこれが家庭内で行われるならば、夫も妻も共に相手の感情を傷つけるような、かっとした気分で物を言わないであらう。

この実世間で、また日常生活の試練の中で、人は緊張した気分になり、たくさんの責任が重荷になってかかり始めるとかんしゃくを起して互いに荒い言葉をかけるが、これが不一致、精神のいら立ち、心と心の裂け目、別居等を生ずるのである。

今日適用することのできる今一つの肝要な要素は、中傷に対する開拓者の態度である。中傷やうわさ話に夢中になる人は、平凡な人か又は普通以下の人である。この人がたまたま社交界か政界か教会の中か、その何れかに於て人より抜きん出て居ようと



も、その心は氣高さを欠いている。

これまで婦人開拓者について多くのことが話されている。しかし、勇敢な人々のために建てられた記念碑に、これらの人々の名前が僅かしか刻まれていないことを人は発見するであろう。これらの人々の中には、家族の間だけにしか知られていない人もある。また大平原の中の人目につかない墓所の中に眠っている人も少からずある。しかし、これらの人々が一言も不平を言わずに背負った重荷、乾き切った西部の植民地に与えた貢献、数々の試験の最中に身を以て示した多くの美德とほとんど超人的とも言うべき忍耐力とは、世界に数多い女性の勇士の中に於いて高い地位をこれらの人々に与えるにちがいない。

婦人開拓者たちはどんな非常の場合にもよくこれに耐えた。彼女が死のおそれに直面した危機に示した勇氣は、夫が示した勇氣と同等であり、ある場合にはそれにも優ったこともあった。彼女は愛する者たちと教会と神とに対して誠実であった。言い尽すことのできない艱難辛苦を一言の不平も言わずに耐え忍んだ。そして自分を忘れて勇しく、最もひどい逆境に在っても女性の有つ最も氣高い職分である母性という責任を立派に果した。

最近私は数ある自分の貴重品を眺めていたとき、一つの古い手織の毛織物をふと見つけた。それは私の祖母が織ったものであった。私の祖母は自分で羊の毛を刈ってそれからその織物をつくった。当時ユタ州には一つの工場もなかったから、私の祖母はその羊毛をすいて糸につむいだが、祖母は大平原を徒歩で横切つてユタへ来た人であった。私が自分の大切にしている手織の毛織物を眺めると、それは古くなってすり切れていたとは言え、本物の毛糸で造つてあつ

て一本の偽せ糸も混つていなかった。

私はちやうどそのころ、私の娘がある特別の目的に使いたいと思つていた近代製の布地の見本をしらべているのを見た。娘はその布地から糸を選び別けて念入りにしらべていたが、突然「まあ、これはただの紙ですわ」と大きな声を出した。外から見ると、その布地は新しさと魅わく的なことで古い手織の毛織物に優つていたが、本当のところそれは偽せ糸であつた。その一片の手織の毛織物が本物の布地の代りをする近代製代用品に於けるのは、長年の試験に耐えてきた非常に根本的な不変の美德が近代社界にある快樂の約束、耽溺、偽せの理想に於けると同じである。この古い根本的の理想は本物である。今日人の心に訴える理想の中には魅力のあるものもあるが偽せである。外から見ると、それらは魅わく的であり、立派であるが、経験という吟味にかけて試験をしまつと試してみると失望の塵あつた以外に何ももの残らない。

最後に、これらの名譽ある開拓者が有つていた最も氣高い理想であり、また今日教会の中にある最も氣高い理想は礼拝という理想である。開拓者は毎日自分たちが開拓者として通る荒野の小道を踏んで出発するに先立ち、幌馬車の中に居ても円陣のまわりに居ても常に祈りを捧げた。一つのこらずの幌馬車に居た家族もそれぞれの祈りを捧げた。開拓者が二番目にしなければならなかったことは、彼らの所持している小銃が正しく装てんしてあるかどうかを調べることであった。幌馬車を走らせる人たちは、いざと言えば引き金が引けるようにしていつも小銃をひざの上に乘せていた。また、曳車用の牛馬につきそつて歩いていった人たちは、不測の事件に備へ小銃を腕で支えて持つて歩いた。

(六頁につづく)



時間と才能と金銭の限りを尽して

王国をうち建てるために働こう

ポール・C・アンドラス

本当に改宗したわが教会の会員は神の王国を建てるために一人のこらず自分の持物を皆いつでも喜んで教会に捧げます。本当の末日聖徒は皆、もしも要求されるなら自分の持っているこの世の財産、時間、才能および自分の生命さえ王国を建てるために、ことごとく喜んで差出します。実際、ある人が本当に改宗したかどうかは、その人が自分の時間と才能と金銭とを以て喜んで教会を支えている程度によってわかります。従って各々の人は自分がどれ位本当に改宗しているかの程度を、自分がどれ位時間と才能と財産とを喜んで教会に捧げているかを決めることによって速かに決定することができます。

千八百三十年にわが教会が回復されましたが、それに引きつづいて、わが教会に加わった人々は、その人々の持っているこの世の財産を教会へ引きわたすように要求されました。しかし現在主はこれを教会の会員に要求してはおいでになりません。それであるから私たちが要求されたときに、いつでも私たちの持物のすべてを喜んで教会へ差出す必要はないと決めるのは大きな間違いであります。主は今でも主の教会の会員が、王国を建てるためにいつでもその持物を皆喜んで差出すことを期待しておいになります。しかし、主は私たちが自分の時間と才能と財産とをちやうどどれ位現在教会へ差出すことを期待しておいになる

でしょうか。私たちは完全な「什分の一」と毎月の断食献金とを払うように明らかに命ぜられて居ますが、主はこのほかに上の問に対する答を各個人の責任に任せておいでになります。それにもかかわらず、主は「われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。そは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。従つて人善を為さば決してその報いを失わざらん。されど命令を受くるまでは何事をも為す事なく、疑いの心を以て命令を受けこれを不精不精に守る者は救われず」と仰せになつて居ります（教義と聖約五十八〇二十七—二十九）

この聖句から会員は、王国を建てるために一人のこらず出来るだけのことを為すはずであり、また何人も、命ぜられるまで待つべきではないということが明らかにわかります。

主は、主の教会の会員がもし要求されるならばいつでも自分の持物をことごとく喜んで差出すことを期待しておいでになり、また要求されなくても王国を建てるために会員の一人一人が皆実際に全力を尽すことを期待しておいでになります。それでも主な会員の一人一人が皆自分自身とその家族の生活に必要なものを与えることを期待しておいでになります。マッケイ大管長はこれまで多くの場合に、家族があるのに扶養しない人は不信心な人よりもっと悪い

と言いました。従つてわが教会の会員一人一人はその家族に衣食住を与える義務があり、またどの会員もこの大切な義務をおろそかにしてはなりません。そうすることは不信者であることよりも悪いからであります。

さて、これまで述べたことをみな考えてみると、主は、主の教会の会員たちに何を期待しておいでになるでしょうか。その答は明瞭であります。まず第一に、主は各会員が完全に「什分の一」を払うことを期待し、第二に断食献金を払うことを期待しておいでになります。また第三に各会員が自分自身とその家族に衣食住を与えることを期待しておいでになります。その上に主はまた、各会員が残りの時間と才能と金銭の限りを尽して、王国を建てるために活潑な働きをするように期待しておいでになります。

私は、一般的手引きとして、収入のある各会員はその収入の十五パーセントを神の王国を建てるために捧げるように計画すべきではないでしょうかと申します。これは最低の提案であつて、最高の提案ではありません。「什分の一」で十パーセントをとり、断食献金で約一パーセントをとります。そして残りの四パーセントはあなたが要求される通りに、またあなたが好むままに支部予算、支部建築基金、地方部大会旅行基金、宣教師基金或いはその他の基金に捧げるべきであります。わが教会の事業は世界中に増加していますから。要求に応じなければならぬ予算、建て

なければならぬ建物、支えなければならぬ宣教師、および実行しなければならぬ大切な計画があります。従って私は、収入のある各会員が今からつづけて教会へ自分の収入の少くとも十五パーセントを捧げるように即刻決心するのは良い考えではないでしょうかと申します。しかし、これは最低の数字でありますから、もしあなたがこれよりも多く捧げることができたらそうするのが至当であります。

本当に改宗した人々はどれほど多く主のお蔭を蒙っているかよく知って居ますから、主に仕えるために自分の財産をいつも喜んで捧げます。ベンジャミン王はそれを次のようにモルモン経の中に誌しました「また、たとえ始めからお前たちを造つてこれに息を与え、以て毎日毎日お前たちを生かし、生きて動き意志のままに行うことを許し、時々刻々お前たちを支えて居りたもうお方に全身全霊の力をつくして仕えても、お前たちはそれでもまだ益にならない僕である。ごらん、神がお前たちに要求なさるのは、お前たちが神の命令に従うことだけである。それで神は『汝らもし神の命令を守らば地に栄ゆべし』と言う誓約をお前たちに立てたもうた。そして神は一たび口に出したことを変えたまわないから、お前たちが神の命令を守るならば神は必ずお前たちを祝福して栄えさせたまう。ごらん、まず神はお前たちを造つて命を与えたもうた。それであるからお前たちは神に恩を受けている。次に、神はその命令通りに行えとお前たちに要求なさる。もし、お前たちが神の命令通りに行うならば、神はその従順さをほめて直ぐに祝福を与えてこれに報いたもう。それであるからお前たちは今でも神に恩を受けているばかりか、これから先とこしえに恩を受けている。それであるから、お前たちは何

を誇りとすることができようか」(モーサヤ書二〇二十一—二十四)

(三頁よりつづく)

第三の教えは「あらゆる人はよく思いはかりて、自己の幸福を心にかくる如く、他人の幸福にも心をかくべし」というのであった。

開拓者は逆境に在つても互いに助け合い、パンの最後の一片を飢えている人たちに分け与え、共同社会を築き上げるために自分たちの時間と財産とを捧げ、また一再ならず真理のためにその生命を捧げた。この人たち、すなわち西部山地の開拓者は、強健で誠実で徳行があり正しくて、神をおそれる人民であり神の民であつた。

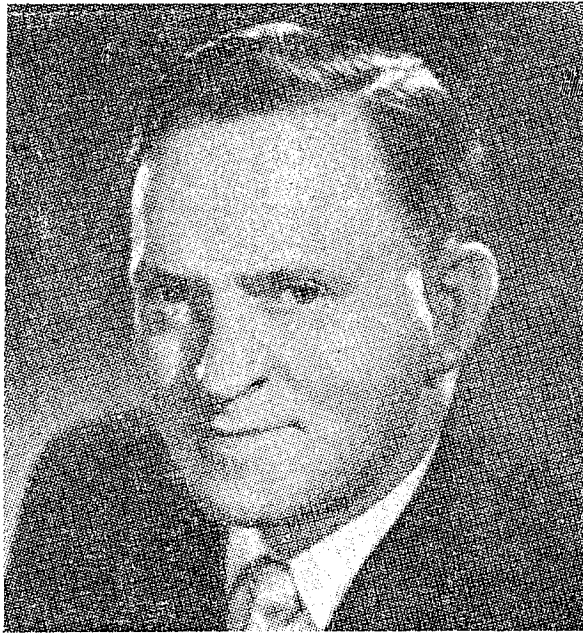
今日、われわれは安楽な家庭や、そびえ立つ商業街や教会や学校へ行くほそう道路の上に車を走らせる。また世界のあらゆる大中心地へ通じている輸送用動脈の上に車を走らせて行くが、これらはすべて開拓者の人々とそれらの人々に後れて来た人々のすえた基礎の上に建てられたものである。

物質的の業績に富んでいても、われわれは開拓者に勇氣と力とを与えて成功をさせた誠実と信仰の美徳をいつも大切にしようではないか。またわが開拓者についての思い出を尊ぶ最も良い方法は、ただ言葉で尊敬を払うだけでなく、開拓者の立派な行いに負けないように努めはげむことであるのをいつも忘れないようにしたいものである。

善をなすにうむことなかれ

アルヴィン・Ｒ・ダイヤー

(十二使徒会補助)



昨日の早朝、私は二つの重要な電話を受けました。一つは、マッケイ大管長からであり、他の一つは私が監督であった時の私のクラス中の若い祭司からでありました。マッケイ大管長に呼ばれてから彼の事務室に着くまで、ほとんど無限に感じましたが実際には、それは約三十分過ぎなかったのです。兄弟姉妹たちよ、この神権の時代の神の予言者である我々の教会の大管長の側近く対坐し、このような資格に於いて奉仕に召されることは大いなる緊張と靈感を受ける一時であります。貴方がこのすばらしい男性の顔を見る時、突然自分の生命

が赤裸々となり、そのような奉仕に個人的に召されたからでなく、奉仕したいという天性を持っていたことを喜ぶであります。そして私は、そのような感じを、ほんとに感謝するものであります。私に何か能力があるからそのお召しを受けたのではなく、私の心に主に奉仕したい気持が燃えているからであります。

私はたしか非常に惜しみなく施す大いなる慈善家ナタナエル・ボールドウィンであったと思います。彼はこのような言いまして、与えたいと言う望みの方が与えられる能力よりもっと嬉しい。

私はミズーリの初期に主が疲れ果てた聖徒たちに、本質に於いて次のように語ったのがあります。

「この故に善を為すにうむことなかれ、これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつゝあればなり、見よ主は喜びて事に従う精神を求む」(教義と聖約六十四章三十三節―三十四節)

更に主は続けてもしも貴方が進んで奉仕する気持がなかったら、エフライムの血統でないと言っています。故に私はどんな資格に於いて奉仕に召されようとも心の内に進んで主に仕えんとする望みに感謝しています。

昨日マッケイ大管長に呼ばれてほとんど五分後に、この若い人が私に電話して言いました。

「監督さん、私は貴方の祭司のクラスの暴れんぼうの一人だったのです。私は監督になりました。そして誰か援けが要るのです。今日少しの時間私と過して下さいませんか？」そして私は昨日大きな喜びを以て彼と共に何時間か過したのであります。しかし私も彼と同様に感じているのであります。私は何らかの援助を必要としています。そして兄弟姉妹たちよ、私は私にもたらされる、主に奉

仕する多くの機会から、若しも私が私の分を尽すなら、主は私を祝福し、高め、私の眼前にある仕事を、完成する力と理解を与え下さるであろうことを知って居ります。

私はこの教会で与えられた大いなる説教の一つは、ミズーリのファーウエストでなされたヒーバー・C・キンボールのいわゆる「粘土像説教」であると思います。彼はその中で次のように言っています。「私たちは主の御意志に従って造られた粘土像のようにあるべきである。そして主の御意志を行うべきである」彼の説教は予言者ジョセフ・スミスによって、私たちが主に仕えるべき態度の反映としてこの時満ちたる神権の時代への大いなる貢献の一つであると主張されました。

このような時に貴方たちの生活に入ってくる多くの影響力に感謝を以て答えるのは当然のように思われます。私は昨日の朝から私の祖父母たちがその昔、福音を受入れて海を渡って来たその大いなる信仰に就いて考えて来ました。先日私は英国に伝道しています私の兄弟から手紙を受取りましたが、その中で彼はこのように言って居ります。彼がイングラント・カヴェントリに在る旧い教会を訪問した時、そこに「ダイヤ・ギルド組合の教会」

と刻まれた石の額があったと。私はこの手紙を読み返し、私たちがこのギルドの三千人以上の為に神殿の仕事をしているのを知っていましたので非常に喜びました。

私は終局に於いてこれを可能ならしめた祖父母に対し、またすでにこの地上を去ったけれど、その感化を今日私は感じる私の父母たちの信仰、また大きな福音への愛に對し感謝します。私は単に伝道地のみならず、私が監督として奉仕した時もまた教会内でその他の地位に在った時も、常に私の傍に立つて常に私が責任を果すように励まし、その遂行を容易にくれた私の伝道の同僚なる妻に、永えんに感謝して居ります。私は彼女の偉大なる信仰と献身に感謝して居ります。私は最近数々のMIAの集會に出席してベネット姉妹又はロングデン姉妹と肘をつき合せて坐りましたが、尚且私の妻が傍に居ると錯覚を起す程、妻が傍に居ると言う意識は不断なものとなりました。

私は現在BYUに学び伝道の望みを懷いて熱心に勉強し、清い生活をして決して冒瀆的な言葉を使ったことのない立派な頑丈な私の息子に感謝して居ります。私は私の

すばらしい娘たちに感謝して居ります。これは私の二人の子供であります。彼らはすばらしく、私は彼らの福音に対する愛と、私たちの仕事に対する支持に厚く感謝して居ります。

私は、かつて私のステーク部長であったニール・ファイ・L・モリスおよびエドウィン・F・パーレイ監督および私のスカウト・マスター、ジョージ・ランドに対し感謝し、また常に靈的に高い概念に生活して居た私の兄弟ガスに対し感謝して居ります。これらの人々が私が今このお召しに於いて私のものとなった責任を負うて立たんとする時に思い出される人々であります。

マッケイ大管長は常に私の理想であり模範でありました。私は常に彼を見なさい、彼がそなえている大いなる人格に同化されるようにつとめて来ました。貴方は彼と握手してそのすばらしい眼によってじつと顔を見られた時、真にここに神の予言者が居ると感ぜずして彼の前に立つて居ることは出来ません。私はマッケイ管長に対しまして伝道の仕事に於いて親密に交際したりチャーズ副管長、彼が反対者の内に在つても主に仕えんとする大いなる献身と信仰と決心に対し、また私及び私の

家族に多くの親切を示してくれたクラーク副管長に対し感謝して居ります。

私はここに居られる兄弟姉妹たちまた教会幹部である他の人たち、特に親しくした人たちすべてに感謝致します。私は全心を以て彼等を支持し、熱心に彼等の命に従い、これからの私の任務に向うにあたつて彼等の希望にそうように致します。

私はMIAの仕事に於ける同僚たちに感謝して居ります。私はまだ伝道地からの荷物をほどこして居りません。けれども私は既に、若い人たちの為にこのように献身して居る素晴らしい男女の人々を持つて居ることを感謝し、私たちが我々の若い人たちの廉潔さを保持する大きな義務を負わされていることを強く感じ、その使命を達成する為にこの機関に課せられて居る大きな責任をも知っています。

私はイエス・キリストの福音の証詞を持つて居ります。私はそれが真実であることを知つて居ります。私は私の五体のすべてを以て、イエス・キリストの実在を、彼が神の息子であることを、彼が神性を持ち、エーテルのよきな本質でないことを、彼はジョセフ・スミスによつて宣言されたように栄光化された復活体であることを知つて居ります。

私はジョセフ・スミスが神の予言者であり、実際に彼は父なる神と御子イエス・キリストを見たこと、そして主が人類の仕合せと喜びと昇栄（栄えに進む）をもたらし、為に必要なすべてを私たちにお授け下さつたことの証詞を致します。

私はこれが主の教会でもし私たちが忠実に誠を以て私たちの生活を必要のように調整して私たちのなすべきつとめとして主に仕えるなら、私たちは主が約束した喜びを見出すであろうことを知っています。そして私はこの証詞をイエス・キリストの御名により貴方たちに残します。アーメン

（ダイヤー長老は一九五八年十月十一日の一二八回大会で十二使徒会補助に支持された。これはその大会に於ける説教である。ダイヤー長老は合衆国中央伝道部の部長、及びY・M・M・I・A中央管理委員会第一副会長を歴任した。彼は教会内のみならず、市民としても、また実業界にあつても大いなる業績を残している。一九〇四年一月一日ソルト・レーク市に生れ、ソルト・レーク神殿でメイ・エリザベス・ジャックソンと結婚、五人の子供の父親である。）

「復活の法則」 (続き)

佐藤 竜猪

これがすなわち予言者の言った回復である

(アルマ書四十〇二十四)

五、復活体

万人がこの世に居る時に有っている肉体は血液によって生かされている。「それは肉の生命は血にあればなり」(レビ記十七〇十一)。そして人が死ぬと肉体を造っている物質は分解し、霊はその物質から離れてしまう。それはこの世に於ては肉体と霊とが不可分に結合されて居ないからである。「而して塵はもとの如くに土に帰り霊はこれを授けし神にかえるべし」(伝道の書十二〇七)。しかし、復活の時にはこの霊が再び体にかえり、体は再び霊にかえって(アルマ書四十〇二十三)「復活体となり、霊と体とは再び分離することがない。それで

あるから人は復活して不死不滅の体を受けるのであるが、この復活体はもはや血液によって生かされる体でなくて霊によって生かされる体である(コリント前書十五〇十四)この霊によって生かされる体である「復活体」と霊だけの体である「霊体」とは区別されなくてはならない(「救いの教義」第二巻二八五頁。註参照)。「復活体」は霊によって生かされる骨肉を具えた具体的な体である。エルサレムで十一弟子に現われたもうたイエスは「復活体」のイエスであった。「わが手わが足を見よ、これわれなり、われを撫でて見よ、霊には肉と骨となし、われにはあり、汝らの見るごとし」(ルカ伝二十四〇三十九)。

六、元の自然な形に復る

人が死んでから復活をする時には、元の自然な形に復って復活する。アルマ書第四十章二十三節には「霊は再び体にかえり、体は再び霊にかえり、手足も骨も関節もみな元の自然の完全な身体のものにかえり、髪の毛一筋もなくならず身体の中の部分もみな元の自然の完全な形に復るのである」とある。片手片足のない人、首のない人、さては粉砕された人がそのまま復活することはない。五体の不足して生れた人も、この世で体の一部を失った人もみな「元の自然な完全な形に復るのである」。「バプテスマのヨハネはこの世に居た時その首を切られたが、予言者ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの前に完全な「復活体」を具えて現われた。人が死から復活する時には霊と体とが再び分れないように結合して不死不滅の「復活体」となるのであるが、その際あらゆる不具畸形が除かれて完全な形となり本来の形にかえるのである(アルマ書十一〇四十三)。

主なる神は癒しと回復の能力を有ちたもので、不具畸形の体のまま葬られた人も

復活の後にその不完全な部分が癒えるのを待つ間もなく「ほとんど直ちに」完全な形を具えるのである。（「救いの教義」第二卷二九四頁。註参照）。また、墓に葬られた幼児は墓の中で成長することなく幼児のままよみがえり「復活体」に於いて成人をす。 （同上参照）。

七、キリストの体の傷痕

或る人は質問するであろう「然し、キリストの復活体には傷痕があつたではないか」と。われわれはこの特殊な顕示を以て一般に及ぼすべきではない、というのはこの顕示には特殊の目的があるからである。当時キリストの弟子たちはキリストが復活したもうことを信じていなかった。また最も疑い深いトマスは始め他の弟子たちと共に同じ場所に居合わせなかった。しかし、トマス以外の弟子たちだとて、キリストの復活を確認するまでトマスよりも疑い深くなかったと誰が言えよう。キリストは弟子たちに「われを撫でて見よ、霊には肉と骨となし、われにはあり」（ルカ伝二十四〇三十九）と仰せになり、また後にトマスに向つて「なんじの指をここに伸べてわが手

を見よ、汝の手をのべてわがわきにさし入れよ」（ヨハネ伝二十〇二十七）と仰せになった。キリストの体にある傷痕は再臨の際に確かにキリストであることをユダヤ人に証明する大切な証拠となるにちがいない。

八、第一の復活

キリストが復活して「眠りたる者の初穂」となりたもうて以来、今日まで「どんな復活が行われている」という考えがあるが、これは何ら聖典の保証がない推測である。誠に主なる神は御旨のままに或る人々を死人の中からよみがえらせたもう、特にこれらの人々に「復活体」を有つて遂行する使命をお与えになる時は然りである。前に述べたようにペテロ、ヤコブおよびモロナイ等の場合はこれに属する。われわれは、第一の復活はなお将来のことである。すなわち主が天の雲の中に現われたもう或る一定の時に起る義しい人々の復活が第一の復活であると了解している。主なる神は御旨のままに特定の人々を死からよみがえらせたもう能力を具えたもうが、われわれにとつて重大な関係のある第一の復活はキリストの再臨の時に始まるのである。（「救

いの教義」第二卷・二九九—三〇〇頁、註参照）。

九、復活体に種類がある

すなわち再臨の時に第一の復活が始まるのであるが、この時に復活をする特権がある者を少くとも二つの階級に分けることができる。その第一は「神とそのキリストとの御前にいつまでも限りなく住む日の栄の王国に属する者たち」（教義と聖約七十六〇六十二—七十）であつて、第二は月の栄の王国（教義と聖約八十八〇二十一・二十二）に属する者たちである。

キリストの再臨に際して「墓に眠りてありし者たちはその墓開かるる故に出で来り、天の柱の唯中にて主と合わんために彼らもまた挙げられん、すなわち彼らはキリストのもの、最初の実なり。それはキリストと共に最初に天より下る者、また地の上墓の中などに在りて彼を迎えんがため最初に挙げらるる者たちなり。而して、すべてこの事は神の使ラッパを吹き鳴らす響によりて起る」（教義と聖約八十八〇九十七—九十八）。これらの者は正しい人々であつて「神とキリストとがすべてを審きたも

う者にて在す天にその名を誌さるる者なり、これらの者は新しき誓約の仲保者にして而も自らの血を流してこの完き贖罪を為し遂げたるイエスによりて完くせられたる義人たちなり。これらの者の体

は、日の光榮に属し、

その光榮は日輪の光榮にして、すなわち神の光榮なり」(教義と聖約七十六〇六十八―七十)。

主と、主に合うために挙げられた義しい人々が地球へ下ったあとでまた別の復活が起る。この復活は後から起るのであるが、第一の復活の一部分と考えることができよう。この復活では主と合うために挙げられるほど適

わしくはないが、「福千年」の統治を受けるに適わしい人々が復活して来る。「救いの教義」第二巻・二九六頁)これらの人々の体は「月の光榮の体にして、日の光榮の体にあらず、その光榮の異なること、月輪と、日輪の異なるが如し」(教義と聖約七十六〇七十八)。

「短 歌」

仙台 桂島良子

“大島にて”

人まだ暗らき甲板の上に黒潮を
我れは魅せらる時を忘れて

暁の船は着きけり岡田港

足につめたく大島の浪

聳えたつ三原の山はかくあれと

無言の教訓我れに示さん

旅に來てなじめぬ夜具に寝返りの

枕に響く波音近し

「俳 句」 西支部俳句 五月句

野口善二郎

じゅん菜の生ふる岸辺の大つつじ

笥いとけや幼なきものみな愛かなし

風渡る野に鯉のぼり低く立ち

勝又 次郎

筍の芽をけてあわてる子の姿

手折られんばかり道端の江つつじ

坂上の若葉のかげの職場かな

小室 たみ

出迎への手よりほのかに筍香ふ

外人も立てたり大きな鯉幟

老婆への筍別にきざむ妻

義と聖約七十六〇九十四・八十八〇五)では 百六、八十八〇百一、「救いの教義」第二巻、二九七頁、註参照)これらの人々は、完全なままの福音を受け入れることを拒んだけれども正しい生活を送った人々である。

「偽りを言う者、魔術を行う者、姦淫を行う者、娼婦を買う者、また何人にまれ偽りを好みてこれを言う者たち」(教義と聖約七十 六〇百三)はキリストの再臨の時に始まる第一の復活にあずかることができなくて、キリストが足の下にすべての敵を征服したもうてその御業が完うされる時まで地獄に投げ入れられ神の怒りを受けなくてはならない。これらの者は、残りの死者であつて、キリストの再臨の時から始まる「一千年」の終るまで復活することができない。これらの者は、星の光榮の世界に属する者たちである。(教義と聖約七十六〇百三―

極東に於けるモルモン

私の改宗



福田 濃

(仙台支部第一副支部長)

“凡ての事は汝らの益なり。これ多くの人によりて御恵の増し加わり、感謝いや増りて神の栄光のあらわれん為なり。” コリント後書四章十五節。

もしも……であつたら、と過ぎ去つた事を考える事は、人の進歩にとって役立つよりは愚痴になる事が多いが、しかし私の場合“もし英会話に興味を持っていなかったら、今頃どうなっていたらう”と考える時、私に与えられた神の大きな御導きにいつも心から感謝を覚えるのである。今までの多くの兄弟たち

が、多かれ少かれこの英語を通じて教会を知つた様に、私の改宗もまたこの一つの異国語に負っているのである。あえて真理を求めようとするでもない当時の私の生活を、ぎりぎりとしきしぼって永遠の生命という的を目指して私の霊の矢を放ってくれた若い二人の宣教師、オールドハム、赤木両長老に心から感謝している。また私は“汝ら我を選びしにあらず、我汝らを選びたりと”と云う聖句もひとしお身に感じてゐる。私は神を求めようとはしなかった。私は神を愛そうとはしなかった。それなのに神はかえって私をお選び下さつたのである。

“神は愛する者を強くしたもう”。神が選ば下さつた私は強くならねばならなかつ

た。何によつて……私は約三年という年月を病床に身を横たえて肉体的に靈的に試みを受けねばならなかつたのである。私の若芽のよくな弱い信仰はこの大きな嵐でもろくも折れてしまいそうになった。恥しい話だが、今、東京南支部長をして居られる渡辺驪兄弟が宣教師としてクラーク長老と訪れてきて下さつた時などは、私の信仰の弱さから恐らく彼らの心を煩したに違いない。しかし兄弟姉妹のたび／＼の訪問、弟の真兄弟の強い証言に支えられながら神への一条の光を見失う事はなかつた。

この三年半の病床生活、またその後の生活にあつても、私はこの他数々の主の御導きと御守り、また主の訓誡とを受けた。

後なる者は先にの例えどおり、私よりおくられて教会の門をくゞつたとは言え、真兄弟の主の道を歩むその速さは、私よりも遙かに速く、私が退院してうろ／＼している時に彼は全時間を主に捧げる伝道の機会に恵まれ、更にそれより約十ヶ月後、将来私の良き伴侶にと決めていた佐々木姉妹をも主はお選び下さつて人々の間に神の真の道をのべ伝える仕事にお召し下さつた。病後の体が余りよく固つていない私の代りに二人をお選び下さつた主

は私がその留守をよく守るよう支部の大きな責任をお与え下さった。「神権をうける者はその肉体再新さる」との約束は真である。今までこの大きな責任を果たしてこられたのも実に不思議な位である。このように主の豊かな祝福にあずかる一方、私はまた誤ちの為主からきつい叱責をうけ、そのため、志を同じくする兄弟たちと共に始めたクリーニング店も閉鎖寸前におちいった。しかし神はそれでも、悔い改めて立ち返ろうとする僕をお許し下さった。一人の兄弟を私の許につかわして下さり、再び店を「シオン」の名に恥じな

いようにと私をむちうって下さった。私はこの兄弟の心からの授助と励まし、兄弟姉妹やその家族の方にすべての人の好意を通して示される神の大きな御恵と愛に私は心から感謝し、最後に総てのものをその御心に従って導きたもう主は実に生きてまします事、この教会はその生ける神によって導かれ、神の門をくぐった者は誰でも主の御霊の御導きをうける事が出来る事を心から証し、兄弟姉妹たちがこの御霊の導きをいつも享受出来るよう心から祈ります。

私の体験

——二つの機会——



高木 富五郎

(名古屋支部)

かつて私は、私の改宗動機について本誌に証しを書いたことがある。それは丁度五十年

前(一九〇九年)の秋、実兄の高橋仁吉兄弟が札幌支部に居って「東京のモルモン教会本部を訪ねなさい」と紹介してくれたので、牛込薬王寺町の本部で伝道部長のアルマ・O・ティラー長老に面会したのが、この教会を知

った最初であった。私の十五才の時である。そこで私は五十年の長い間に経験した色々な話のうちで次の二つの事柄を話して見たい。

(第一) 一九二一年の秋でした。私は或る新聞の特派員としてワシントンに滞在していた。時の國務長官ヒューズ氏のレセプションに招待されて出席すると、いよく会合が始まって私たちのテーブルは五人の賓客で囲むことになった。やがてお互いに名刺を交換すると、私の隣席にいた人は「日本大使館顧問ギューリック博士」という。

『貴方はどちらからお出でですか』と博士『ソルト・レーク市に一年半ほど住って、そこからワシントンへ来ました』と私。

そんな会話の結果、博士は『ソルト・レーク市ならモルモンを見たでしょう』と言うので『私はそのモルモンの聖徒です』と答えたところ、『それではそのモルモンの話を聞かせて呉れませんか』と博士は非常に真面目に言われるので、私の知っている限りの知識と弱いながらも証しを述べる機会を得たのである。

一、ジョセフ・スミスが真剣な祈りの後「神と御子キリスト」に会ったこと。

一、天使モロナイに導かれてクモラ山で「モ

ルモン經」の金版を手にしたこと。

一、神の力によつて古代変体エジプト語で書かれた金版を翻訳したこと。

一、迫害に屈せず「真の教会」を回復したことのために殉教したこと。

一、後継者ブリガム・ヤングによつて聖徒たちは西方に難をのがれ、ロッキーマウンテンに今日シオンの地を営々と建設したこと。

などを数え上げ『だから聖徒たちは強い信仰と証しを持ち、主の掟を実行することに団結して働いています』とたど／＼しい英語で話して汗を拭いたことでした。

すると黙つて聴いていたギューリック博士は、まず『フーム』とうなずいてから

『よく判りました。あなたの信仰はキット

あなたを神のみ許へ導いて下さるでしょう。信仰は決して誇張しないで、卒直に受け入れることです。お蔭でアメリカに起つたモルモンは、外国人のあなたから何うことの出来ましたことを感謝いたします』

と、これはまたすばらしく流暢な日本語で話されたには驚いた。博士は「あなたが一生懸命に外国語で話された熱意に感動されましたよ」と言つて、心からなる握手を交したことでした。

(第二) 友人五人でイエロー・ストーン国立公園へドライブして、暑中休暇を利用して二週間を楽しんだことがある。ソルト・レーク市を出立して、ローガン、アイダホフォールスなどを経て国立公園へ着き、大滝や湖水や氷河などの近くにキャンプして十日ばかりで帰途についたが、どうしたか道を間違えて持参の地図に示されるハイ・ウェイに出ることができなくなり、何処まで走つてもセイジ・ブラッシュュだけ生えている砂漠地帯から脱れることが出来ない。日没が近いので今夜は砂漠のマン中でキャンプすることにきめ、

天幕を張り、セイジ・ブラッシュュを刈り取つてキャンプの近くで焚きはじめた。それは猛獣をよけるためである。

すると三百メートルほど離れたところにある三軒の農家の人たちが、私たち外人を珍らしく思うのと、旅先で困っている実態を見つけて、みんなが寄集つて来ている／＼と慰めの言葉をかけてくれたり、飲料水を提供するというので水桶を貸してくれたり、至れりつくせりの親切である。そして談中たまたま教会の話が出ると、この農家の人たちは総てモルモンの聖徒であることが判つた。さこそあれ、モルモンの聖徒たちは見ず知らずの人

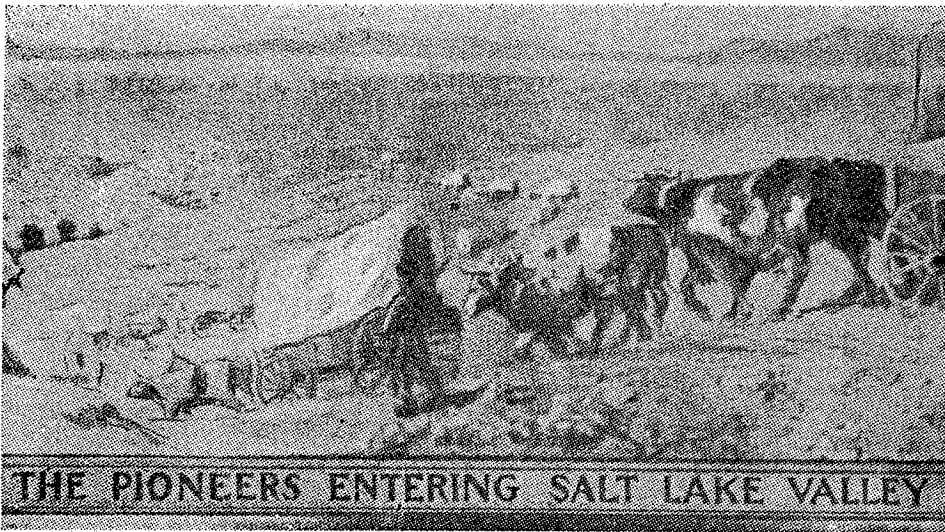
へでも心から親切をつくすことの真実を知つたわけである。

私がモルモンだと判ると、日が暮れてからも農家の人たち四人もやつて来て、『どうして日本でモルモンになったか』ということや日本伝道部の現状を根掘り葉掘り聞いて興味深く語り合つたことである。

十時頃になつて此の人たちが帰つて行つたあとで、砂漠の向うの方から『カヨテ』の鳴声がしきりにきこえて来たので、私たちは交替で焚火を大きくし、かつ銃を取つて空に向い空砲を発射して警戒の任にいたのであつた。

それはとにかく、私はモルモンなるが故に特別な優遇をうけ、また私はモルモンなるが故に、旅行中に受けた利便は一再にしてとどまらない。四十年前のアメリカにおけるモルモンは、如何に純朴と誠実に充ちあふれていたかを振返つて見ると、今もなお心あたたま





ソート・レーク谷に入りつつある開拓者

の境にいたフォルダムの傍に行きその右手をとって彼にはなしかけました。フォルダムは口がきけず、ひとみはすわって義眼のようになり、なにもわからなくなっていました。スミスはなを彼の手をもって黙々としてしばら

く彼の目を眺めて居りましたが、間もなくフォルダムの面相が変わり、眼力がかえってきてみることが出来るようになった。そしてスミスが「我を知るや」とたづねれば、彼はこえに「然り」と答えました。スミスはまた「医される信仰があるか」とたづねると「すでにおそし、今少しく早く来りしならば医やされたるならんもおそらく今は難からん」といゝました。予言者スミスは「イエス・キリストを信じているではないか」と、フォルダムは弱く「信じております」と答えました。そこでスミスは直立して同じくその手の中にぎってしばらくの間、口をつぐんで言い出さなかったが、突然非常な大きな声で「兄弟フォルダムよ、我はイエス・キリストの名によりて汝に命ず。しとねを離れて医えよ」とスミスの声は人の声のようではなく、神の声のようであった。家は土台までも震動したようであった。フォルダムは床より飛び出で、パップやおたいを取り棄て、着物を着、パンと牛乳とを持ってきたといゝました。それを食しますと予言者スミスと共に外へ行きました」(教会略史一一二頁〜一一四頁より)

その日ウィルフォード・ウッドラフも召さ

れて病氣の子供を医している。迫害のさかんな時であつたので暴徒はこれを見て非常におどろいた。実にその日は聖徒も悪人にもこの世の神の力の実在を見た忘れることの出来ない日である。

開拓者記念日 (七月二十四日)

一八四七年四月七日、ウィンター・クォーターズを出発したブリガム・ヤングにひきいられる一行一四〇数名は山や川を越え、七月二十四日にユタのソルト・レークに到着した。ブリガム・ヤングは峡谷から立上って盆地をながめ、彼は「正にこの土地である」と宣言した。これが彼らの約束された土地であつた。この盆地はその塩の湖と共に七月の太陽の下に輝いていた。これは山脈の中に於ける樹木なしの広原であり、この乾燥した広地は唯峡谷から流れ出て湖にそぐ、わずかの溪流によつてのみ跡をつけられている。これこそジョセフ・スミスが予言した聖徒たちが「ロッキーマウンテンの真中に大いなる民となる」であろうといった所であつた。

ジョン・テイラーの死

(七月二十五日)

ジョン・テイラー大管長は一八〇八年十一月一日、英国のミルンソープに生れた。

ジョン・テイラー大管長は初期に於て教会に加入し、ジョセフ・スミスの忠実な支持者の一人で、激化した迫害の為に他の人々が教会を去った時でも忠誠を守り続けた。

ジョン・テイラーはジョセフ及びハイラム・スミスとウィラード・リチャーズと共にカーセージの獄中に在った。予言者と大祝福師が殉教した時も四つの傷を受けて、死ぬのではないかと思われた。テイラー大管長は彼の日記の中で彼は死を恐れなかったが、残りの生涯を不具者となることを恐れたと言っている。けれども、彼は主に祝福されて、死ぬこともなく完全な健康体に回復し、強い体力に復した。

ジョン・テイラーが教会の大管長であった時、教会とその会員たちは残忍な迫害にさらされた。合衆国すべて

の人がモルモン撲滅という共同の目的に結合しているかのようであった。合衆国の法律をさえも無視してモルモンから自由市民旗を奪

い去ったのであった。

一八八七年の初期に迫害の為、ジョン・テイラー及び副管長たちは逃避するの止むなきに至ったのであった。彼は一八八七年七月二十五日避難していたユタ州デヴィス郡ケイス



ジョン・テイラー

た。彼は悪と妥協せぬ、丁度その行いの如く確信の強い英雄的性格の持主であった。ここに彼が死ぬ時の副管長たちの言葉を引用するのが適當であろう。

「ジョン・テイラー大管長は、この領地で合衆国政府を誤って代表した役人たちの苛酷な手によって殺された。彼がもしその奪い取られた、多年住みなれた家庭の慰安、家族に対する務めを許されていたら、もっと多くの才月を生きたのびたであろうことは疑いないことである。彼の血は、残忍な憎しみを以ての捕縛に報いんとし、彼を墓穴へと追いこんだ者たちの衣服に塗られた。歴史は彼らにふさわしい名(当然受くべき汚名)を以て彼らの行為を呼ぶであろう。」

×

×

×

伝道本部だより

新宣教師到着

◎ジョン・チャドウィク長老(ユタ州アメリカンホーク)とエルトン・R・タイラー長老(アリゾナ州メサ)は六月十七日來朝

宣教師異動

マールン・シモンズ長老 岡山へ
ゲイラン・ハリス長老 本部へ
ジョン・ワンラス長老 名古屋へ
ロバート・ヘイズ長老 本部へ
ジェリー・ウイルコックス長老 松本へ
チャールス・グレイフィン長老 東京西へ
アドリー・ステイブンス長老 広島へ

ウイルマ・アパナ姉妹 那覇へ
ローズ・ヒガ姉妹 本部へ

解任

ニール・キンボル長老とロナルド・ヒルス長老は五月二十三日宣教師として任期満了解任されクリーヴランド号で二十四日帰国された。
出原順子姉妹はただ一人の日本人宣教師として、任期満了後も引続き六ヶ月延長され伝道したが五月十四日解任された。
ウイルオード・アステル長老は六月一日任期満了解任された。

神権

◎執事
倉見光男 旭川
谷山国明 群馬
工藤栄一 馬
坂本鉄典 松本

◎教師
楠本卓可 三ノ宮
島村耿司 横浜

◎祭司
土橋道雄 三ノ宮
日野義三 仙台

◎長老
山村祥一 三ノ宮
渡部正尚 横浜

◎長老
川島一夫 横浜

外に韓国に執事三名、教師三名、祭司一名の聖任があつた

バプテスマ

坂巻みや子 群馬
山本家寿子 広島
加藤武行 金沢
浜浩一郎 金沢
村上道夫 名古屋
若松準子 名古屋
池田美恵子 新潟
池田和子 新潟
高田光枝 新潟
坂田泰昭 新潟
荒島民子 新潟
森川章二 新潟
河合貴美子 三ノ宮

鍋沢公子 〃
小林幸司 仙台
渋谷敦子 東京中央
藤川等 柳井
具志堅ヨシ子 那覇

外に韓国に十四名のバプテスマがありました。

第二副伝道部長に任命さる

ローエル・E・ブラウン長老
大管長会の認可により、ローエル・E・ブラウン長老は五月十六日、十二使徒マーク・E・ビーターソン長老から伝道部長会第二副伝道部長に任命された。
ブラウン長老はカルフォニア州、ロレンゾの出身で、ローエル・ブラウン兄弟・姉妹の息子である。この伝道部に召される前、彼はユタ州立大学の学生で電気技術を専攻していた。
ブラウン長老は一九五七年十月二十一日この伝道部に到着し京城東支部及び京城中央支部で伝道した。伝道部長会の第二副伝道部長に召される前は、韓国地方部の管理長老として働いていた。



ユタ州の

開拓者記念日

と

その意義

全世界の末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は毎年七月二十四日が来ると、必ず一八四七年七月二十四日、ソルト・レーク盆地に到着したモルモンの開拓者のなせる著しい業績に深い思いを寄せ、これら開拓者たちの大いなる勇氣、雄々しさ、忍耐力に心からの感謝を捧げる。

この記念すべき日に、全世界のモルモンは一所に会し、開拓者たちを思い、開拓者たちの信仰を讃える。また彼らが己の良心の指示に従い、神を礼拝せんとして西部に移住して来たということが壇上から何回となく繰り返えし語られる。開拓者たちは福音を愛し、それを自分の生活に実践する事によって、真実の自由と平和とを勝ち得たのであった。

多くの犠牲を必要としたアメリカ東海岸から西海岸に至るまでのモルモン開拓者たちによる大旅行は、一八四七年七月二十四日、彼らがロッキーマウンテンの麓に彼ら自身の未来の故里、グレイト・ソルト・レーク盆地を一目見た時、大いなる実を結んだと言える。この事を目撃したウィルフォード・ウッドラフ（第四代目の末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長）の日誌に目を向けてみよう。

『「これは私の生涯を通じ、また末日聖徒の

歴史を通じ極めて重要な日である。峡谷に野営をしつゝ旅行を続け、遂にわれわれはグレイト・ソルト・レーク大盆地、神の御手により聖徒たちの休息の地として保存されていた約束の地にやつて来た。こゝに神のシオンが建てられるであろう。」大旅行についてもう少し説明を加えてみよう。

開拓者たちがロッキー山脈に近づいた時、旅路は益々困難になってきた。そこで、牛、馬車隊は疲れ果て、幌馬車は使い尽されてしまった。それに加えてけわしい山間の峡谷では急流と巨大な漂石や密林と相俟って広い草原では経轡もしなかった新たな問題にぶつかったのである。

七月二十一日、先導者なるオルソン・プラット、エラスタス・スノーがソルト・レーク盆地に入った。三日後に病気で遅れていたブリガム・ヤングがベッドより起き上り、しばしの間示現を与えられて、そこにシオンとイスラエル人の未来の光栄を見た。示現が終ると、彼は「これで充分、正にこの土地である。進め」と云った。

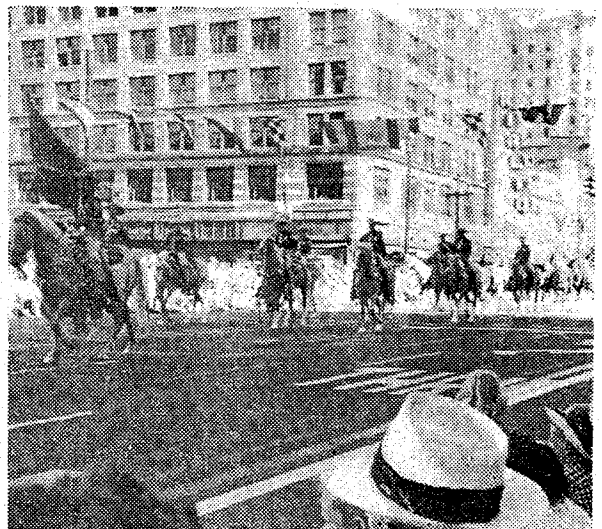
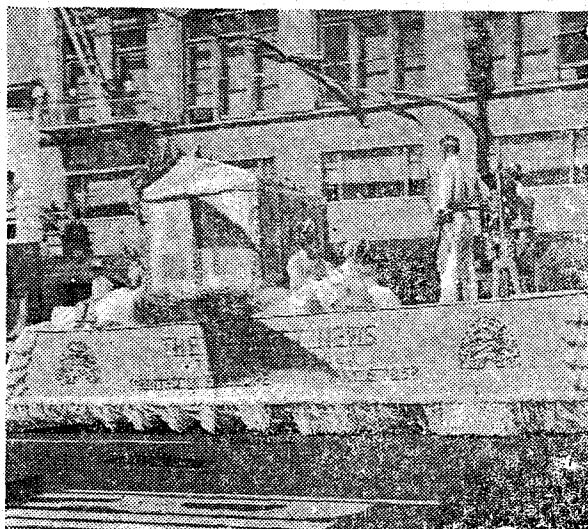
これが約束された土地であった。この盆地はその塩湖と共に七月の太陽の下に美しく輝いていた。

ブリガム・ヤングの説教集の中に、一八四七年にソルト・レーク盆地に定住する事が開拓者たちにどんな意義があったかが示されている。

「われわれは他に行くべき所がなかった。この山間地帯にやつて来た。われわれはこの不毛の砂漠を住うべき所とするため、イリノイ州の肥沃な地に家屋と財産を残して来なければならなかった。われわれがこゝに来るまで、どんな人もあえて来ようとはしなかった。そして今われわれはこの地がわれわれにとって世界の最良の地の一つである事を発見したのである。

……われわれがここに移つて来たのは、深い全智全能なる神の御心によるものであった。」

しかし、こゝは全く樹木なしの広原であった。この乾燥した広地はただ峡谷から流れ出て、湖にそそぐわずかの溪流によつてのみうるおされているに過ぎなかった。これが聖徒たちの夢みていた目的地、「いいいの地」「約束の地」であった。開拓者の主団体が到着して二時間後に、ソルト・レーク盆地の耕作が始められた。けれどもスキが折れる程に土地は乾いて固かった。そこで峡谷の一溪流の方



開拓者記念のパレード (ドナルド・ゴースリンド長老提供)



ブリガム・ヤング

向を転じて、こゝに導き、やつの事で、土壌がしめり、耕作し易くなった。じゃがいもが植えられて。灌漑も行われた。このように約束の地に着いてからも開拓者たちの苦難は絶えなかった。しかし、現在この地には、緑の木々が青々と一面に繁茂し、刈り入れの頃になれば、麦の穂が波打って、豊作の「きざし」を示している。これはひとえに如何なる苦しみにもめげず努力に努力を重ねた開拓者の勇氣と忍耐、それに加えて、神の大きな恩恵の賜であると云えるだろう。

ソルト・レーク市は百十二年の間末日聖徒イエス・キリスト教会の本部に定められている。若し昨年このソルト・レーク市を訪れたなら、きつと一八四七年を祝う開拓者に関する多くの活動を見ることが出来たであろう。約二万人の青年男女が七月十八日にアスファ

ルトで舗装されたメイン・ストリートを行進し、全市をあげての記念祭を始めたのである。少年少女たちはみな、色とりどりに着飾り、一八四七年にはじめてこの盆地入りをした開拓者なる先祖に感謝の思いを捧げていた。しかし、一八四七年に於ける延千百マイルの旅程に及ぶ、疲れ切った開拓者たちの行進とはちがい、一九五七年すなわち今日の青年たちはパレードに参加するという感激とスリルで興奮し切っていた。

この一年一回の記念祭のもう一つの特徴は日の出と共に行われるリンドセイ・ガーデンに於ける礼拝行事であろう。こゝではモルモン大隊のユニフォームを身にまとったユタ開拓者の子孫たちによって旗があげられ、またこの礼拝で特別な演説もなされる。更にソルト・レーク市で最も大きいホテルと云われる「ホテル・ユタ」でユタ開拓者たちのために食事会が催される。こゝに集まる人たちは鉄道の敷かれる前にこの世に生を受けた人たちで、今でも二十名位は残っていると云われている。

昨年は記念祭の一行事としてテムブル・スクエアのタバナクルで、野外劇「これらは吾が民」が上演された。また昨年ではなかった

が、タバナクル合唱団の特別な記念演奏会を開いたこともあった。

もう一つの大きな催しは一八四七年頃の西部を思い出させるような、公開馬術競技会である。

恐らくこの記念祭で最も大きな催物は、何千何万という多数の人からなる規則正しいパレードであろう。これはこの町に住む人ばかりでなく、この特別週間にソルト・レーク市を訪れる旅行者の目を見張らせ、感激させるものである。

われわれは、日本人として開拓者の大なる業績に思いを至すことが出来るが、この二十四日にソルト・レークを訪れる事の出来る人は恐らくないだろう。しかし、開拓者たちの残した大いなる遺産を考え、彼らの信仰に尊敬の念を払おうではないか。彼らの如く自由を愛し、宗教をこの生活に実践しようではないか。



若き末日聖徒の為の

モルモン経物語 (二二)

エマ・マー・ピーターソン著
渡部正雄訳

第六十四章 強盜ガデアントン

(ヒラマン第一章及第二章)

ヒラマン二世の時代にガデアントンとキシクメンと云う二人の非常に悪いニーファイ人が住んで居りました。彼等は、殺人者の心を持ち強盜を好み、金や物を盗む為若し必要ならば人々の生命をも奪いました。

悪魔が此の二人を支配しました。彼はアダムとイブの子カインに示した悪の道を彼等に教えました。彼はカインをさそってその兄弟の羊を盗む為その兄弟を殺させたのであります。彼は又他の人々にも世の物を盗む為如何にして罪を犯すべきか又その罪の内に如何にお互を守るべきかを

教えました。

ガデアントンとキシクメンはゼラヘムラの地の政府を倒そうとたくらみました。モロナイ將軍の親友ペホーランが病死したので同じくペホーランと名づけられた彼の息子が民により彼の父親の後をついで大判事兼統治者に選ばれました。

キシクメンはこの交代は彼の悪だくみを実行するのに好い機会であると思ひました。彼は変装して大判事兼統治者の家にしのび込み、大判事兼統治者が法廷に坐っている間に殺してしまいました。統治者の僕が殺人者を追いかけましたが、キシクメンのように早くなかったのでキシクメンは逃れました。彼は仲間の許に帰りました事を告げ彼等は

皆キシクメンが統治者を殺した事を誰にも告げないと云う誓いを立てました。だから悪人仲間は民の内を往来して誰も彼等を疑いませんでした。

ペホーランの他の息子が大判事兼統治者に選ばれました。彼の名はパクメナイと云いました。彼は選ばれて間もなくして、その町に攻めて来たレーマン人によって殺されました。これ等のレーマン人が追放されてから他の選挙が行われ、モロナイの友人ヒラマンの息子ヒラマンが統治者に選ばれました。

ガデアントンとキシクメンは、義人であり又教会の役員であるヒラマンを好みませんでした。そして彼をも殺そうとたくらみました。彼等は悪者仲間を集めてこれから行おうとする犯罪にお互を守ると云う誓いを立てました。

ガデアントンは悪賢い人間で、この盗賊仲間の頭目になりました。彼は悪者仲間に若し彼等が彼を統治者にするなら、彼は彼等に政府内の要職を与えるであろうと告げました。

キシクメンはガデアントンが統治者となった時、如何に大きな要職に就かされるかを聞いた時、その奸言にのせられてしまいました。悪人仲間がヒラマンを殺そうとたくらんだ時、キシクメンは統治者の家に行つて殺す事に同意しました。

けれどもヒラマンの一人の僕が探偵として遣わされてい

て、ガデアントンとその一味の計画を知りました。彼は変装していたので、盗賊共は彼がヒラマンの僕である事に気づきませんでした。

盗賊共は彼等の集会所以外で逢つた時にお互に交わす記号を持つて居りました。この方法により彼等はお互の親密を保ち、彼等がその一味である事を示しその悪の誓いの秘密を保つて居りました。

ヒラマンの僕は、この記号を発見しました。彼は又キシクメンがヒラマンを殺しに役所に出かけることをも知りました。その後変装を止めて統治者の僕の服装をした彼はヒラマンを探しに來たキシクメンに逢い、この秘密の記号を与えました。

キシクメンは統治者の僕の中にガデアントン盗賊の仲間を見出して喜び、彼に近づいてヒラマンを殺す彼の計画を告げました。彼は僕にその計画を実行する為彼を法廷に導くよう頼みました。

ヒラマンに忠実な僕はキシクメンに「さあ、法廷に行く」と言いました。

盗賊は今や彼の悪だくみがたやすく出来るようになったと思つて喜びました。けれども彼等と一緒に歩いている時僕は即座に短剣を抜いてキシクメンの心臓を刺し殺してしまいました。盗賊は声もなく倒れ死んでしまいました。

僕はそこでヒラマンの処に走つて行き起つた事を告げま

したのでヒラマンは、彼の護衛兵を遣わして他の盜賊共を探出して捕えさせようとした。けれどもキシクメンがすぐ戻って来なかったので、ガデアントンは何かよくない事が起ったのだと気づいて、彼と一味の者達は荒野に逃避してしまいました。ヒラマンの護衛兵達が盜賊の集会所に來た時には彼等は皆逃亡してしまつた後でした。

ヒラマンの部下に追われて荒野に逃亡している間にガデアントンと一味の盜賊共は、政府を覆す為にもっと多くのニーファイ人共を自分等の仲間に入れようとたくらみました。

第六十五章 ゼラヘムラ占領さる

(ヒラマン第四章)

救主降誕の約三十五年前ニーファイ人達は平和に住んで居りました。主なる神さまは彼等を祝福し、その結果彼等は大変繁榮致しました。けれども以前にもあったように彼等は、今や主なる神さまよりも彼等の金銭や、はでな衣服等をもっと愛するようになりました。彼等の内の或者達の間には仲間争いが起り、而も非常に悪化しました。又他の者達は教会及その会員に挑戦して來て迫害を加えました。或者共は義しいニーファイ人達を皆殺しにしようとする程悪くなって來ました。謀叛心を持った悪いニーファイ人達はレーマン人共を煽動して戦いを始めようとした。

けれども、レーマン人達は戦うことを欲しませんでした。けれどもニーファイ人からの裏切者達は、レーマン人達にいろ／＼のうそをつきましたので、彼等はニーファイ人に對しだん／＼と悪感を懷き、遂に戦う決心をしました。

レーマン人等は一年中來るべき戦鬪の準備をしました。之に反しニーファイ人達は戦争を予期しませんでした。そのような準備をしませんでした。年末に至つてレーマン人達はニーファイ人達を不意打ちし、多数の者を殺しました。以前の戦鬪に於ては彼等は先づゼラヘムラ周辺の地を攻撃しました。けれども今回は、彼等はニーファイ人の國の中心に侵入し、ニーファイ人共をその家から追出してしまいました。彼等は國の首都であるゼラヘムラ市を攻撃しこれを占領してしまいました。其処に居た或人々は、北方の地に通じる細首地帯の近くのバウンテフルに逃避しました。それから彼等は北方に向つて移動しました。此の時のニーファイ軍の司令官はモロナイハでありました。彼はその都市がレーマン人の手に陥つたのを見て、又敵軍の方が友軍より多勢なのを知つて、南方の地は放棄せねばならぬ事を自覚しました。彼は急いで細首地帯の南方入口の線に要塞を築きました。そしてそれより南方に居たニーファイ人達は保護を求めて急いで要塞内に逃避して來ました。この細首地帯は一日行程であつたとニーファイ人達は言うて居りました。

レーマン人等は二年間の間ニーファイ人達を此の要塞線の背後にとち込めていました。けれども戦闘の第三年目にモロナイハは強力な軍隊を組織して南方に進出しました。彼は多くの古いニーファイの町々を再占拠し始めました。けれどもそれは多くの犠牲を伴った戦いでありました。

モロナイハは義人でありました。彼は此の新しい戦争から受けた苦難は、ニーファイ人達が栄えた時主なる神さまを離れて悪に走った結果であつた事を知りました。

主なる神さまの援助なくしてはレーマン人達を更に撃退する事が困難である事を知っていたモロナイハは、ニーファイ人達が悔改めることを望みながら説教を始めました。けれども彼等は彼の言葉を聞こうとしませんでした。しかも教会の会員の内にさえ主なる神さまから離れて聖書の予言を信じなくなった者がありました。

更に二年間モロナイハはレーマン人と戦い己が民に悔改めを説きました。けれども彼はどちらにも成功しませんでした。レーマン人等は増大した軍勢を以ってモロナイハ軍を攻撃しだん／＼と撃退して行きました。遂に彼は細目地帯南方の彼等の市や町を再占拠することを断念しました。レーマン人達は無数に増え、彼の民はあまり悪くて戦争に勝つことも出来ませんでした。彼にはどのような結末となるのかわかりませんでした。

第六十六章 平和の使者

(ヒラマン第五章)

ヒラマンの息子のヒラマンは、ニーファイ及びリーハイと言う二人の息子を持つて居りました。彼等は主なる神さまを愛し主なる神さまに仕えるよい若者でありました。彼等の父親が死んだ時、ニーファイは神聖な記録をもらいニーファイ人達の大判事兼統治者に選ばれました。

ニーファイは、モロナイハ將軍が主なる神さまの祝福なくしてはニーファイ人達はレーマン人等に滅ぼされるか又はその奴隷とせられるであろうことを知っていた事を喜び彼を愛しました。

大判事兼統治者としてニーファイは、その民の悪いのを見て心を傷めました。彼及び彼の兄弟リーハイは偉大なる予言者であつた彼等の父親の教えを憶えて居りました。

二人の兄弟は今やその民を悔改めさせようと願つて伝道に出かける決心をしました。ニーファイは大判事兼統治者の職を去つて全ニーファイ人に説教する計画を以って伝道に旅立ちました。彼等は先づバウンテフルに行きそこからギド市に行き次にミレク市に行きました。

それから彼等はレーマン人の間に行きました。主なる神さまはそのみたまを以って彼等を祝福しましたので、彼等は大いなる力を以ってレーマン人に語り、多くの者が彼等

の語る言葉を信じました。ゼラヘムラ地帯で八千人のレーマン人達が改宗してバプチスマを受けました。

ゼラヘムラで此の大いなる働らきをして後、二人の兄弟

はレーマン人の国の奥深く進んで行きました。彼等が奥地に入るとすぐレーマン人の兵士に捕えられて、アンモンとその兄弟達がラモーナイ王の民の処に來た時に捕えられて入れられた牢獄に投げ入れられました。ニーフアイとリーハイは食糧も与えられず、終日そこにとちこめられました。

或日兵士達が彼等を殺しに來ました。

彼等が牢獄に入るや驚いた事には二人の周囲を取巻いて火が

燃え上って居りました。その火は牢獄を燃やさず又宣教師にも何の火傷をも与えて居りませんでした、それは正に炎でありました。



レーマン人達は、恐れて接近することが出来ませんでした。

ニーフアイとリーハイは此の天の火に囲まれ、又レーマン人達がそれを恐れているのを見た時、彼等は主なる神さまにその火を送って下さった事に対し感謝しました。彼等は驚き恐れているレーマン人に向って「恐れるな 見よこれ等の不可思議なことは、主なる神さまがお前等に我等を殺してはならないと云うことを示したのである」と言いました。

彼等がこう言うている時、主なる神さまは地震を起し牢獄を震わしましたが、その壁は倒れ落ちませんでした。

そこには他の囚人も居り、その或者はレーマン人であり又レーマン人に加わったけれども牢に入れられた或ニーフアイ人も居りました。

暗黒な雲が牢獄の内に入って来て更にレーマン人を驚かせました。そこで声が聞え「悔い改めよ 悔い改めよ 汝らに良き音ずれを伝うるため、わが汝らにつかわしたるわが僕らを亡ぼさんとすることを止めよ」と言いました。

それは大きな声でなく小さな柔かいさゝやくような声でありました。けれどもそれは其処に居たすべての人の心を刺通しました。それは再び地を震い牢獄の壁は震動しました。声は三度語られました。

囚人の中には曾て教会の会員であり、其後背教したニ-

ーフアイ人が居りました。彼は暗い雲を通してニーフアイ、リーハイの方を見ましたが、彼等の顔が闇を通して天使の顔のように輝いているのを見ました。彼は彼等が誰か天上の人物と語っているかのようにその眼が天に向けられているのを見ました。

このニーフアイ人はアミナダブと言う者でしたが、牢内の他の者に向ってニーフアイとリーハイの顔が闇を通してそのように輝いているのを見るようにと告げました。

そこで彼等はその方を向くと、アミナダブが見たと同様の光景を見ました。彼等は彼に向って「これ等はすべて何を意味するのか？ 彼等は誰と話しをしているのか？」と尋ねました。

彼は「二人は神の使と語り合っているのだ」と答えました。

そこでレーマン人達は「私らがどうするとこの黒雲が私らの上を離れて去るだろうか」と尋ねました。

アミナダブは「悔い改めて、アルマ、アミユレク、ゼーズロムが教えたキリストを信ずることができるとまで先刻聞えたあの声に祈らなくてはならぬ。そうすればこの黒雲はまわりから離れ去る」と答えました。

そこで囚人等は、その暗黒の雲が取除かれる迄祈りました。その覆いが取除かれるとニーフアイとリーハイを取巻いていた天の火が彼等の周辺にやって来ました。その火は

炎のように燃えていましたが、彼等をやけどさすこともなく又牢獄の壁をも焼きませんでした。之らの火に取巻かれた人達は聖霊に充たされました。彼等は喜びにみち聖霊に靈感されて多くの素晴らしい事を語りました。

天の声が再び聞え、「我が深く愛する子を信ずる故、心を安んぜよ」と言いました。

彼等がこの声を聞いて、その声のする方を向いた時、彼等は天が開けて天使が降りて来て彼等に奉仕するのを見ました。

牢獄の中の約三百人の者が、これ等の事すべてを見ました。彼等は今や町の人々の間に行つてその見た処を告げるように言われました。彼等はその通り行い、その附近のレーマン人は彼等の説教により殆ど改宗しました。改宗した者は皆再び戦うことのないよう武装を放棄しました。

彼等はニーファイ人の多くの町を占領して持つて居りました、彼等は改宗した後これ等の町をニーファイ人に返しました。

ニーファイ人よりも好い民となった程、多くのレーマン人が改宗しました。ニーファイ人の間の教会の会員達はレーマン人の改宗した事を主なる神さまに感謝し、喜んで彼等を教会に迎え入れました。

今や多くの改宗したレーマン人達が、悪いニーファイ人達の間に來て説教しました。彼等はゼラヘムラ市に行つて

悔改めを教えました。

そこで彼等はニーファイ及リーハイと共に他の地方に行き、そこで説教しました。多くのニーファイ人が信じ、全国を通じて平和が訪れました。ニーファイ人はレーマン人の間を、又レーマン人はニーファイ人の間を安全に旅する事が出来るようになりました。両方の民とも農地を耕し、ろ／＼の金属を採掘し、いろ／＼の衣類や宝石等を造り、彼等は再び榮え始めました。



礫推正三兄弟

破門さる

礫推（らくすい）正三兄弟は一九五九年六月十六日、当教会から破門されました。従つて同日以後、同人は末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン教会）と何の関係もないことを謹告致します。

私の証詞

土屋けさ子

(松本支部)

私がこの教会を知ったのは今から八年前の一九五一年十月でした。近くにある小学校の運動会が終ってから帰ると間もなく二人の外人が私の家を訪れ、しづかに、「私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師です。もし迷惑でないのなら今からすこし神様のお話をしたいのですが」と言いました。それはカナヘレ、ヒル両長老でした。

終戦後私たちはある事に悩み苦しんで居ました。世の物質的なことに過ぎなかったが、何も解決する事が出来ず、全く弱い私故に生きる望みすら失って居りました。

やさしい二人の宣教師によって家庭集会を開いていただき、世の創主であるまことの神様を知ることが出来ました。

長女が幼稚園に入った時、お部屋の中にかけてある一枚の写真がなにかとてもなつかしい気がしたのでみるとイエス・キリスト様の写真でした。それから私は

キリスト様について知りたい気持ちになったのです。

一九五三年三月十四日、天国の門であるバプテスマと聖霊の賜を受ける按手礼を受けました。現在扶助協会の一員として、教会のお手伝の出来ます事を感謝致します。

翌年、長男と長女が二月と三月にバプテスマを受けました。

日一日と近づいて行くこの末の日に生けるまことの神様を知った事はこの上もないすばらしい事でございます。かずかずの恵みのうちに長男が祭司の職に召されました事は、尊い神様の賜と心から感謝致します。

この教会は唯一の神の教会であり、ジョセフ・スミスから現在のデビッド・マツケイは神の予言者である事を心から証詞致します。

私の証詞

与那峯初子

(那覇支部)

去年三月中旬、私は友達の紹介ではじ

幸福への道

第一の大きいなる誠命は、心を尽し精神を尽し思を尽して主なる我らの神を愛することであり、第二もまたこれにひとしく我ら自身に如く我らの隣人を愛することである。而して世の中で我らの隣人に我らの愛を示す最上の道は、行つて主イエス・キリストの福音を宣言することである。この福音の神性に就て主は我々に絶体な知識を与えられたのである。

ヒーバー・J・グラント大管長

誠実な人々を教会又は神の王国へ導く多くの道がある。けれどもその王国の市民たる特権と祝福にあずかるうとするなら、イエス・キリストの福音の原則と儀式に従わねばならない。

デビッド・O・マツケイ大管長

貴方が聖霊を受けて、その導きと指示を受け且つ過去、現在、未来にわたつてのすべてに就て教えられるよう、行つて福音を説き、経験を得、知恵を修め、貴方の神の前にへりくだって歩みなさい。神を信じ、

めて教会へ導かれましたが、以前にはカトリック教会に行った事があります。

最初、神様を求める気持ちよりも外人宣教師に対する一種の好奇心と英会話の勉強の目的でM・I・A及び日曜学校へも出席していました。やがて家庭集会を持つようになり、聖書を少しずつ読み、関心を持ちはじめた時、ジャック長老が「モルモン教会略史を是非一度読みなさい。私の好きな本です」とすすめられましたので、さっそく買って読んでみました。そのうち私の気持は一八〇度転回して神様の福音と、この教会について知りたいと思うようになりました。

四月二十六日にバプテスマを受けて「新たに生れ変わった」私はこのほど一年目をむかえました。この間神様の大きな祝福と限りなき愛の導きにより、意義深い信仰生活を過ささせていただきました。事、および、この回復された教会の信者となって「新しい生活」をみいだす機会をお与え下さいました事を深く感謝しています。

この教会が回復された真の教会でありその教理が真理である故にいかなる迫害や誘惑にも負けず永遠に進歩し、発展す

ると確信して居ます。私はこのモルモン教会の価値を認識し、そのすばらしさに誇りをいただいています。

神様の私に注いで下さる祝福とによって、すこやかで明るい日々を送り、しかも、他人の為にもお祈り出来るくらい心のゆとりを私に恵んで下さいますのでいつも私の心は感謝の気持ちで一杯です。

他人の目をみて自分の行動をなし、虚栄心にとらわれるようなクリスチャンでは少しも価値がありません。他人にみせるための行動でなく、心の底から善を行い、そこからにじみ出るあたたかさのある心の持主でなければ本当のクリスチャンでないという事を聖書を通して学びました。

私はこの教会がジョセフ・スミスによつて回復された真の教会である事を信じています。

この教会を通じてのみ人は救われ、神様が存在したもう事を強く証詞致します。豊かなる主の祝福が一人々々の上に与えられ、神の愛がみたまされるよう祈るものであります。

その信頼を継続しなさい。そうすれば神は貴方の道を開き、貴方の上に祝福を増し加えるであろう。

ブリガム・ヤング大管長

義の狭き道は幸福への大道である。

ジョージ・アルバート・スミス大管長

イエス・キリストの福音の神権の時代をその手に委ねられることは、世の如何なる時代、如何なる民にとっても容易なことではない。そして神権の時代が与えられたりそれを受けた人たちはその管理に対し高き天の御座の前に責任を負うべきである。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長

すべての証しは、末日に於て主が神権の鍵をすべての民の上に証明として委ねるであろうことである。王国の福音は、末日に始められるであろうか？ 而して神は自らこれを取り行うまで、人からこれを取去るであろうか？ 黙示者ヨハネは、天使の中空を飛ぶを見た。地に住むものに宣伝えんとて永遠の福音を携え……、ヨハネはすべての民に永遠の福音を宣伝えるべき聖なる神権を持っている天使を見た。

予言者 ジョセフ・スミス

支部所在地

部阿野 大阪市東住吉区田辺東町七ノ二
旭川 旭川市八条五丁目
福岡 福岡市薬院大通二ノ五五
群馬 高崎市並榎町二七五
広島 広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢 金沢市成瀬町一ノ四 野田方
甲府 甲府市富士見町一
松本 松本市沢村一六〇四
室蘭 室蘭市幸町八九
名古屋 名古屋市中昭和区北山町三ノ四一
新潟 新潟市中大畑町五五七 金井方
西ノ宮 兵庫県西ノ宮市田代町一一一
岡町 大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山 岡山市国富一ノ一九 丹下方
小樽 小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮 神戸市灘区篠原本町四ノ三五
札幌 札幌市北二条西二四丁目
仙台 仙台市光禪寺通り二八
東京中央 東京都渋谷区八幡通一ノ三四
東京北 東京都豊島区椎名町四ノ二〇六八
東京南 東京都大田区南千束町二四九
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺三六八
山形 山形市諏訪町三九七
柳井 山形県柳井市今市三九一
横浜 横浜市中区磯原町二九
普天間 沖縄宜野湾村野添区三二八
那覇 沖縄那覇市松松尾区一三九

編集後記

伝道部の機関紙である本誌の編集者としてその重責を果たしてこられた高木富五郎兄弟は六月初旬名古屋へ移転され、五月末日をもって聖徒の道の編集主任としての職を解任された。一九四九年十二月の創刊号以来実に九年半の長い間にわたって本誌発展の為に尽力されてきた高木兄弟はもと／＼生え抜きのジャーナリストであり、読売や日経の重要ポストにあられたこともある。特に外交問題のオーソリティーであった。

本誌はこの九年半の間にL・D・Sメッセンジャーから聖徒の道に改称し、紙面もガリ版刷からタブloid版の新聞に変わりさらにタイプによるゲステットナー印刷から本格的なオフセット印刷をへてついに五月号よりA5サイズ活版印刷の現在の体裁にまでこぎつけたが、その間の高木兄弟の苦労はなみ／＼ならぬものがあつた。

高木兄弟は創刊号の発刊の祝辞の中で、次に記す八つの項目を発表し、本誌の構想とされた

のであつたが、今日まで実にこの線にそつて着々と実行されてこられた。

私たち編集部は高木兄弟に心から感謝を申し上げ、またその働きに心から敬服し、その意志をついで今後努力して行く決心であります。なお後任は大塚昌治に決まりましたからよろしくお願い致します。

一、健全な宗教精神をもち立てわが教会の良い伝統を支持すること。

二、わが教会の信仰個条の精神をよく理解せしめるジャーナリズムの役目を果たすこと。

三、福音の伝道活動を促進せしめ、聖徒相互間の親睦協力に資すること。

四、宗教と実生活とが一体となる真のキリスト教を、わが

教会に見出させるよう努力すること。

五、わが教会に関心を持つあらゆる人々の望んでいる記事を集めること。

六、思想の自由な発表のもとにわが教会の目的を統一する機関となること。

七、アメリカ及び其の他の国に於けるわが教会の伝道事情を報道すること。

八、日本伝道部の歴史的記録をつくること。

月刊「聖徒の道」第三巻第七号

一九五九年七月一日発行

定価 一ケ年 三百円

一部 三十円

編集兼
発行人

ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

内 案 書 図

教義と聖約	
高価なる真珠 合本	一一〇〇円
モルモン経	
教義と聖約	
高価なる真珠 合本	三〇〇円
モルモン経 (新訳)	二〇〇円
新旧約聖書 (文語体)	三〇〇円
完成への道	二〇〇円
初等協会教科書	一五〇円
総合聖句の手引	一五〇円
日本系図探究要欄	一〇〇円
聖典中の指導者	一五〇円
家督権の祝福	一〇〇円
扶助協会手引	五〇円

日曜学校用	
福音と生活	一〇〇円
古代アメリカの生活	一〇〇円
旧約聖書物語	一五〇円
教義と聖約の教え	一五〇円
M I A 用	
役員指導書の手引	一〇〇円
モルモンとは?	一〇〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集	七五円
演説が上手になる法	一五〇円
社交ダンス必携	一六〇円
新しいフォークダンス	五〇円
讃美歌及び歌集	
末日聖徒讃美歌	三〇〇円
末日聖徒讃美歌拔萃	三〇〇円
子等は歌う	一〇〇円
レクリエーション歌集	四〇〇円

Fly straight to North America



via CANADIAN PACIFIC's

BRITANNIA

trans Pacific 14 hours to Vancouver
trans Canada daily service to Montreal

More on CPAL's Britannia service—this magnificent jet-prop airliner is now serving on the new transcontinental "Canadian Empress" route across Canada between Vancouver-Winnipeg-Toronto-Montreal. We know passengers from Tokyo bound for the United States will be interested in this new service, for excellent connections are available to major U.S. cities. You will enjoy the smoothest flight over the Canadian Rockies and across the continent, as well as across the Pacific.

For further information, call your travel agent or a Canadian Pacific office.
Tokyo-Nikkatsu Int'l Bldg. Tel: 28-7426/9 Osaka-Hankyu Koku Bldg.
Imperial Hotel Tel. 59-2075 Tel: 36-0986

美術印刷

企画・編集
撮影・図案

高級美術印刷
原色写真印刷

どんな印刷でも
お気軽にご相談下さい

名 社 三 五 堂
合 会

東京都渋谷区八幡通2-15
電話 (46) ~1787・8690